

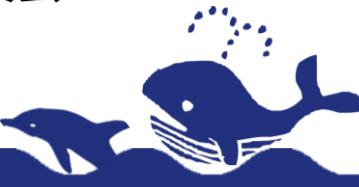


秋田放送(ABS)

# CHANGE FOR THE BLUE in 秋田県 (CFB・海と日本2024)



あきた海ごみゼロプロジェクト実行委員会



## 「ふるさと愛」を育み繋ぐ！三平とを目指すあきたの海ごみゼロ活動

県民ひとりひとりが持つ、海洋ごみ問題やごみの分別に対する関心が低い現状を改善すべく、県民にごみ抑制・削減意識の向上を図る。海洋ごみ対策に向け、自治体や団体、企業と連携し、秋田が持つキラーコンテンツを融合させ、啓発だけに終わらず、楽しく記憶に残る取り組みを行い、ふるさとへの愛着心を育むことで海ごみゼロを目指す気運を醸成する。活動は釣りや自然漫画の第一人者であり、故郷である秋田県の魅力を広めた漫画家 故・矢口高雄さんが生んだ「釣りキチ三平」と共に、あきたの海ごみゼロ活動の輪を広げる取り組みに努めた。また近年問題となっている釣り人のマナー低下を見直す為、海や川の水辺に関わる団体との関係性を深め、現状の課題を探り、その課題に向けてメディアを活用し、釣り人への啓発活動を実施。

### 2024年度 実施状況について

その他:仁賀保高校×地元企業連携商品開発事業



、ラジオ番組CFBコーナー展開

#### 釣り人行動変容促進モデル

「釣り場・漁港の現状を把握し  
見直そう釣り人マナー！」



**概要** 釣りへの政策は難しい部分もあるが、少しでも実態を把握する為、県内19漁港関係者へのアンケート調査を実施。対策を検討する

**目的** 自治体や、漁業協同組合、釣り大会と連携することで釣り人に対して効果的な釣りマナーの向上施策を展開。

**アピールポイント** 調査を基に対策の必要な漁港に啓発看板設置。釣りマナーアップキャンペーンCMを制作し放送。釣具店、釣り大会と連携し、釣り場の清掃活動、ポスター・ステッカー、ごみ袋などを釣り人へ配布し、釣り人の行動変容を促す。また、釣具回収BOXの設置店舗(2カ所)の拡大

**効果** 指標数字:アンケート回答漁港数  
検証方法:アンケート、漁港関係者の声  
見られた成果:調査結果 気になるごみ(釣具、ペットボトル) 対策(啓発看板設置等)

#### スポーツ連携モデル

「J2 ブラウブリッツ秋田  
TRUE BLUEプロジェクト」



**概要** 子供達が憧れるブラウブリッツ秋田の選手とサッカー教室、清掃活動を実施。ホーム戦では、三平、魚紳くんも参加し、海ごみゼロ活動の啓発活動&サポーターとスタジアム周辺のごみ拾いを実施

**目的** 幼いころから海洋ごみ問題の意識付けを図り、ごみ削減や分別意識の関心を高め、ごみを減らす気運を広大化させる。

**アピールポイント** TRUE BLUEプロジェクトでは、「あきたの自然・海を守る」という同じ目標・活動を共有し、サッカーの技術向上とごみ抑制・分別意識を高める。  
試合直前のピッチ脇で記念撮影も実施。

**効果** 指標数字:参加人数、ごみの回収量  
検証方法:ごみ袋の数量  
見られた成果:ごみ拾い姿を見ての波及効果、自発的な参加者の増加、ごみ袋を求める人の増加

#### 自治体、地域、団体連携モデル

「三平ごみ拾い隊・拾い箱イベント」



**概要** 着ぐるみ三平、魚紳くんや拾い箱、拾いかごなどを活用し、様々な団体や企業、お祭りや大会などの連携を図り、参加したいと思える、記憶に残るような楽しい清掃イベントを各地で展開。

**目的** 楽しみながら気軽に参加できる清掃イベントを各所で開催。思い出作りと共に海洋ごみ問題を自分事として、自ら積極的に行動に移す仕掛けを創出する。

**アピールポイント** 清掃イベントの開催告知や実施報告などの情報をメディアを使い発信し、拡散することで多くの参加者を募る。清掃イベントでの楽しみを創出。

**効果** 指標数字:参加人数、ごみの回収量  
検証方法:ごみ袋の数量  
見られた成果:参加人数、ごみの回収量、ごみ袋数量等

### 海ごみゼロウィーク(清掃活動)

### メディア露出



**清掃活動参加人数** 3,765人

**箇所数**

**7箇所**

**アピールポイント** 県内のイベントや大会との連携により大会関係者や県民と共に清掃活動を始め、ごみ抑制・分別を啓発。釣り大会で釣り人との清掃活動を実施するなど。多岐にわたる企業団体との連携を摸索し活動を実施。

**メディア露出本数** 19本(テレビ 12本/ ラジオ 7本 /)

**アピールポイント** 実施イベントや活動はニュースや情報番組、ラジオ番組、WEB/あきた海ごみゼロプロジェクト、SNSを使用し広く県民に発信。また自社媒体以外にも新聞や市報など他媒体からの問い合わせもあり掲載。

### 2024年度の課題とこれからの展望

秋田県での海洋ごみ等の課題は、ごみの漂着現場となる沿岸部だけではなく、ごみに対しての認識が低いとされる内陸部での対策も積極的に講じる必要がある。また清掃イベント情報を入手する場がない、参加してみようと思う、楽しそうなイベントがないなどの声も届いた。このことからイベント告知や、イベント実施報告などもメディアを活用し積極的に発信することが重要と考える。現状でもやはり県民が持つ海洋ごみ問題知識は、まだまだ浅く、ごみ削減・抑制・分別等ごみを減らす気運が広まっていないことが課題と考える。海洋ごみ問題への意識付けや、行動変容は継続した多年的な取り組みを行い徐々に浸透させていくことが重要と考える。今後も釣りキチ三平を主軸とし、自治体や企業、大会やイベントとの連携を積極的に行い、三平と一緒に楽しみながら「学び」「感じ」「体験」する機会を創出し、記憶を植え付けることで、ごみ削減・抑制を自分事化に繋げ、ふるさと意識の醸成を図る。